



～いちご農家の就農事例～

農家になって

いちご農家
小野 一樹

きっかけ

- 独立して何かを成し遂げたい
- 誇れる仕事がしたい
- 岐阜(地元)に帰って暮らしたい
- やればやるだけ自分に返ってくるっていいよね
- 自然の中でゆったりとした人生を… など

なぜ いちご 農家？

- いちごが好き
- 土地なし！金なし！知識なし！
→いちご研修所
- 補助金や融資などサポート体制
が充実
- 価格が安定している
- ハウス栽培なのである程度天
候にも左右されない

研修

- 全14ヶ月の研修
- 四人の研修生でそれぞれ10アールの面積を栽培
- 無給
- いちごの生態や病害虫、農薬など栽培をかなり学べる
- 何より大事な農家仲間ができる



大事な仲間

- 年齢も前職も何もかも違う
- 就農した今もLINEのグループで頻繁に相談
- 月一でご飯
- 定植をそれぞれみんなのところを協力して行う
- 苦しかった研修も忙しすぎる収穫期もみんなで励まし合う

いざ就農

- 岐阜市曾我屋、合渡地区にて就農
- 10アール(約1000m²、300坪)の土耕栽培
- 12アールの高設栽培
- 土耕ハウスは既設なのでお金はほぼかからなかった
←オススメです！
- 高設ハウスは育苗ハウスや作業ハウス含めて、約3500万円(ここから半分は補助金、岐阜市の場合)



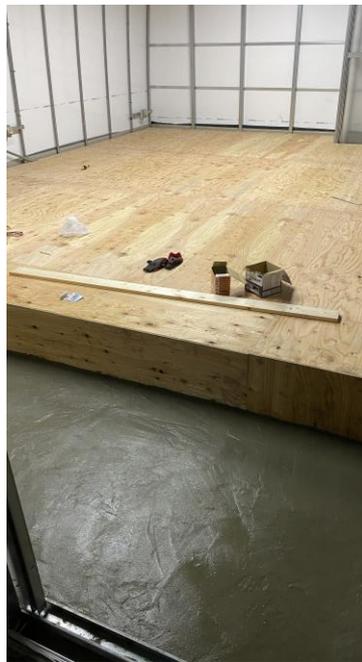
理想と現実

理想(就農前のイメージ)

- ・自由に時間を使える
- ・収穫期以外は暇で、いちごは半年働いて半年休む
- ・儲からない
- ・やればやるだけ自分に返ってくる
- ・面白い

現実

- ・日々作業に追われる
平日に旅行にいける
- ・収穫期ほどの忙しさはないが、なんだかんだ毎日やること多い
- ・かもしれない
- ・本当にそう。手を抜けば抜いただけ面白いくらいに返ってきます。しっぺ返し
- ・面白い。ただ思ってる以上に途方もない作業量で同じことの繰り返しばかりですよ。



自分で作っていく楽しさ

研修所で学んだこと、先輩農家から学んだことを元にいちごの収量や味はもちろん、作業効率の良い方法や道具や作業環境に至るまで全て自分で決めて作っていく。とても楽しい。



感謝される喜び

自分で苦労して育てたものを喜んでもらえるのは本当に嬉しい。次に食べてもらえるまでにはもっと美味しくしよう！もっといっぱい食べてもらおう！就農前の自分にこんな感情あったのだろうか

まとめ

農業は確かに大変。そしてやりがいや自己満足などプライスレス部分が多いのも事実(プラスの意味でもマイナスの意味でも)

作物に合わせるのでそこまでとはいわないが、あらゆる面で自由

命令されず、好きな音楽を聴きながらストレスフリーな毎日

サポート体制も充実しており、暮らしていくのには困らないお金は稼げる。もっと増やせるかどうかも自分次第！！

自分的には就農して大満足！！

大したことは言えないが、聞きたいことや興味がある方はいつでも何でも聞きに来てください！！場所はアグチャレに聞いてくださいね。